

周術期の口腔ケアって 何をするの？

歯科医師・歯科衛生士が専門的な口腔ケアを行います。



周術期の口腔ケアは
口の中の細菌の量を
減らすことを目的と
しています。

専門的な口腔清掃

- 歯垢・歯石の除去、
義歯清掃などを行い
口の中の細菌量を
減らす



口腔衛生指導

- 1人ひとりに適した
歯みがき指導
(デンタルフロス・
歯間ブラシの使い方、
義歯の扱い方、清掃
法)



歯科治療

- むし歯治療や歯周病治療、抜歯などを
行い感染源を除去
- 化学療法や放射線療法による口内炎の
痛みの緩和、口腔乾燥や味覚異常への
対応

手術や化学療法・放射線療法を受ける際、
診察や検査、入院準備等で歯科を受診する
のが難しくなります。

定期的に歯科健診や口腔ケアを受ける
ことで、もしもの時に良好なお口の状態で
向き合うことができます。

かかりつけ歯科医院を もちましょう！



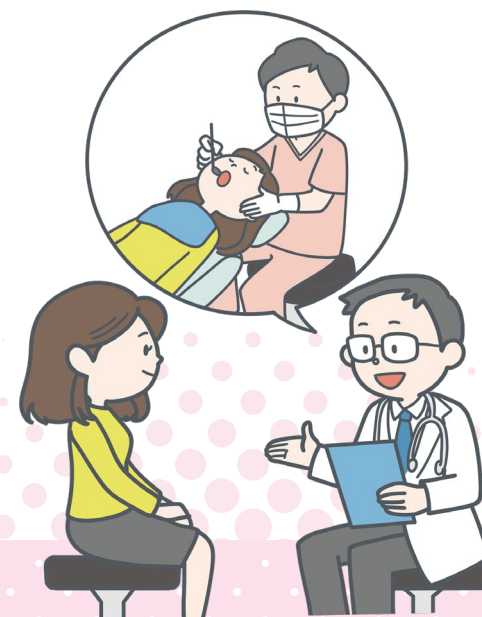
がんをはじめ、さまざまな病気の治療を、
医科・歯科・薬科が連携してサポートします。

問い合わせ先

手術などを受けられる患者さんへ

周術期の 口腔ケアは あなたの命を 守ります

周術期とは、手術やがん化学療法・放射線
療法、緩和ケア等の治療中とその前後を含め
た一連の期間のことです。



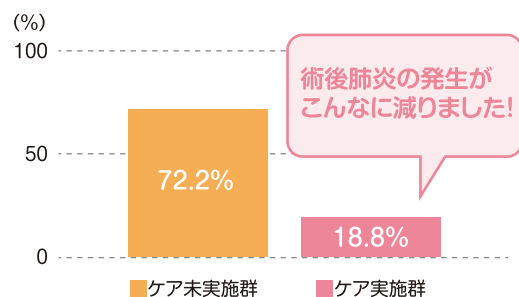
三重県・三重県医師会・
三重県歯科医師会・三重県薬剤師会

周術期に口腔ケアを行う理由

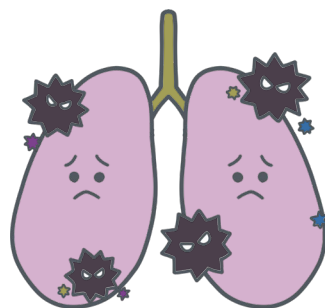
口の中は体温と同じ37℃ほどに保たれ、細菌がとても繁殖しやすい環境です。歯垢(プラーク) 1mg中に数億もの細菌がいると言われています。この細菌が術後の肺炎や手術をした部位の感染などの合併症を引き起こします。

周術期の口腔ケアにより術後の肺炎や合併症の発生、入院日数が減少！

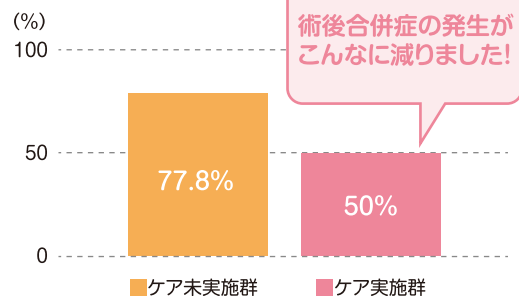
術後肺炎の発生率(食道がん)



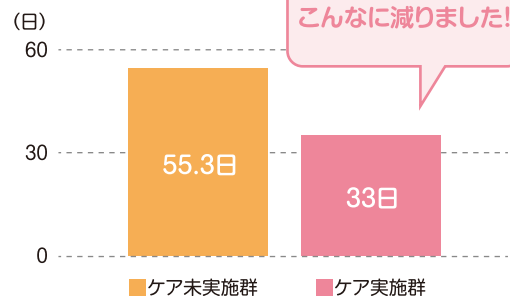
周術期の口腔ケアは、肺炎等の予防と入院日数の減少につながることが分かっています。



術後合併症の発生率(食道がん)



入院日数(食道がん)



出典)厚生労働省第84回社会保障審議会医療保険部会委員提出資料3

周術期の口腔ケアの目的

- 術後の肺炎の予防
- 手術部の感染予防
- 気管挿管時の歯の保護
- 口腔粘膜炎の予防・治療
- 経口摂取のサポート
(術後早期に食事の開始)



歯の保護用マウスピース

全身麻酔では気管挿管(呼吸を行うためのチューブを口から気管に入れる)を行います。この時に歯が折れたり抜けたりしないよう事前にマウスピースを作製して歯を保護します。



化学療法や放射線療法による口内炎

大きな口内炎があると、痛みで食事がとれなくなります。その結果、体重減少や全身の抵抗力の低下をきたし、予定していた治療ができなくなることもあります。

口内炎の痛み、口腔乾燥や味覚異常をやわらげることで、早い時期に口から食事をとることができるようになります。

